

# UEFA EURO 2016 決勝トーナメントにおけるサイドバックの攻撃

曾根田穰 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 山田庸

キーワード：攻撃参加，オーバーラップ，ゲームパフォーマンス分析

## 1. 緒言

現代サッカーは、守備陣形が非常にコンパクトになっているためサイド攻撃が重視されてきている。サイドをオーバーラップしゴール前にクロス上げるだけではなく様々な役割を担わなければならない(相馬, 2005)。大矢(2015)は欧州クラブのサイドバックにおけるプレーの種類を調査しクラブごとに違いがあることを示した。サイドバックの戦術は年々進化しており最新の傾向を調査することは重要である。

そこで本研究では欧州サッカー選手権(以後, UEFA EURO) 2016 フランス大会でのサイドバックのプレーを対象に、攻撃参加の種類と回数を調査し、国ごとに比較検証することを目的とした。

## 2. 研究方法

対象試合はUEFA EURO2016 決勝トーナメント 1 回戦全 8 試合とし、各国のサイドバックの攻撃参加計 207 プレーについて、パターン別に分類し集計した。記録に際しては、大会公式映像を観察し、各プレー回数を記録した。

## 3. 結果および考察

全 8 試合を観察した結果サイドバックには様々なタイプがあり、守備的な選手もいれば攻撃的な選手もいることがわかった。また、攻撃のパターンとしてはオーバーラップからクロス上げるシーンが多く、有効であることが示された。なかでも、多く見られたのが低い位置からのアーリークロスであった。次に通常のクロス、後ろ気味に折り返すカットバックと続いている。また、サイドバックはディフェンスラインの選手であり、自分のポジションを空け相手陣深くまで入り込むことはカウンターを受けるリスクを高めることになるため、カウンターを受けないためのリスクマネジメントにつながっていることが推察される。

国別では、ドイツのカットバック(マイナス

の折り返し)、イタリアのアシスト、アイルランドのドリブル、スイスのシュートが有意に多かった(表 1)。また、サイドバックの攻撃参加が多いチームは 8 試合中 5 勝 1 分 2 敗であり、積極的なチームほど勝率は高かった。

サイドバックの理想像は、守備ではディフェンダーとしての役割を果たし、相手に得点を許さず、なおかつ何度も攻撃参加を繰り返すことができるプレーヤーと言える。今回の研究対象であった 16 チームの中ではドイツとイタリアの両サイドバックが理想像だと言える。

表 1 サイドバックの国別プレー回数

プレー数	オーバーラップ	ポジションチェンジ	カットバック	アーリークロス	クロス	ドリブル突破	ラインブレイク	ラストパス	シュート	アシスト	合計
ポーランド	5			1	1				1		8
スイス	11	1	1	6	5	2	1	1	3		31
ウェールズ	3			1	3						7
北アイルランド	1			1	1	1		1			5
クロアチア	8			4	4	1	1				18
ポルトガル	3			3	2	1					9
フランス	9			3	3			1		1	17
アイルランド	1			1	1	2			1		6
ドイツ	13	2	6	8	3	1	1	1			35
スロバキア	3			1	2	1					7
ベルギー	8	1	1	1	1	1					13
ハンガリー	1			1							2
イタリア	9		3	2	5			1		1	21
スペイン	4		1	4	2		1				12
イングランド	6	1	2	1	2	1					13
アイスランド	2								1		3
合計	87	5	14	38	35	11	4	5	6	2	207

## 4. 今後の課題

今後より多くの試合を調査し、サイドバックの攻撃参加と得点、失点の関係を調査する必要がある。

### 引用・参考文献

大矢真太郎 (2015) UEFA チャンピオンズリーグにおけるサイドバックの攻撃. 2015 年度びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究抄録集, p172.  
相馬直樹 (2005) サイドバックを知る. サッカークリニック 11 : 4-6.